

新年のごあいさつ（平成31年正月）

協同組合広島県鉄構工業会 理事長 山本泰徳

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、希望と活力に溢れる新年を迎えられたことと思います。

さて、去年は、年間を通じて仕事量が確保される中で、図面の遅れへの対処など工程管理に加え、鋼材・ボルトの入手難や納期長期化、難しくなった輸送手配への対応など、本当に忙しく明け暮れた年であったと思います。

また、7月の豪雨により、西日本地域は大きな被害を受け、当組合でも、4社の組合員が被災し、現在もなお復旧途上のファブもあります。

この事態を受けて、組合内で災害見舞金の募集を行ったところ、多くの皆さまから御芳志が寄せられ、全構協、同東北支部、同熊本県組合からいただいた見舞金とあわせて総額364万円を被災組合員に交付することができました。

皆様方の御厚情に深く感謝するとともに、被災組合員の一日も早い全面復旧を祈念いたします。

こうした1年でしたが、組合は、F A Bの業務活性化と地位向上に向けて、着実に歩みを進めることができたと思います。

まず、行政との接点を拡大し、我々F A Bの存在を更に強く印象付けました。

昨年5月25日、当組合の総会に、一昨年に引き続き湯崎広島県知事に御出席いただきました。

専門工事業者の会合に広島県のトップが親しく出席される極めて異例が2年続いたこととなります。

行政を交えた研修会の開催など、これまで努力を積み重ねた結果、F A Bに対する認識、評価が高まっている証だと確信し、大変嬉しく思います。

また、来たる平成31年新年互礼会には、今や恒例となった広島県の宮崎建築技術部長と的場営繕課長が来賓出席されます。

広島県の営繕関係者をお迎えして開催する新年互礼会に、組合員

全員が参加していただきたいと思います。

次に、新たな改革に向けた行動を開始しました。

私は、昨年6月から中国支部長として全構協理事に就任しました。

これまで、5回にわたり理事会に出席し、自分の見解を必ず発言してきましたが、その中で、全構協に対し、理事会における自由な議論を封じようとする姿勢と、変化する時代への迅速な対応の欠如を強く感じております。

については、同じ考えを持つ全国各地のリーダーと協力して、このような全構協の改革を目指し、目の前の一步から取組んでいきたいと考えます。

その一つが、新たな連携の構築です。

全構協理事会で、毎年恒例となったゼネコン、設計事務所等への共同要望が審議された時、私は、製品輸送の諸問題に関する要望は、実効性を高めるため、国土交通省とつながりの深い（公社）全日本トラック協会との共同要望とするよう改善意見を述べましたが、受入れて貰えませんでした。

そこで、広島県ベースで実績を積重ねる行動を開始しました。

9月に（公社）広島県トラック協会を訪問し、協議を行った結果、製品輸送の諸問題の解決への第1歩として、F A B、ゼネコン、構造設計者等の関係者が、トラック運送事業の現況と輸送関連法規等の理解を深めていくことを目標としました。

これに従い、県トラック協会の助力を得て、昨年10月に組合員向けに「トラック運賃等の改定」講習会を開催しました。

また、今年2月12日には、構造設計者やゼネコン等への周知を目的に「製品のトラック輸送」に関する講習会を開催する予定です。

こうした荷主に対する周知活動への協力を通じ、県トラック協会と更なる連携強化を図り、共同要望活動等次の展開を目指します。

そして、広島県の取組みの成功を、全国ベースに広げて行きたいと考えております。

引き続き、皆様の理解とご協力をお願いいたします。

3つ目は、**共済事業の拡充・充実**です。

共済事業に関しましては、メーカー、販売店、組合員の3社が一

体となった取組みが事業を拡大、活発化させるものだと考えます。

そうした思いから、私は指定塗料の販売店に対し、拡販への努力を機会あるごとに要請してきました。これに応じて、販売店も真剣に取り組み、かなり成果も出てきています。

さらに、新しく保険料の安い「F A B 向け新損害保険」も検討されております。

今後も引続き、組合員がメリットを享受でき、同時に組合財政を豊かにする共済事業の拡充を図っていきたいと思います。

4つ目は、青年部の活動の成果です。

青年部がリニューアルして3年半が経過しました。

この間に、大学・建築学会関係者を交えた勉強会をはじめとした技術や経営研修の実績を積み重ね、会員数も31名に増加しました。

また、青年部等F A Bの若手十数名が参加・活動する鉄骨製作部会が第14回日本建築学会中国支部建築文化賞を「人物団体部門」で受賞しました。

日頃の努力が結実した、全国でも初の快挙であり、仲間の榮譽をたたえるとともに、喜びを分かち合いたいと思います。

この鉄骨製作部会は、今、「溶融亜鉛メッキの拡大孔」をテーマに全構協の鉄骨技術研究開発事業の主体となって取り組んでおります。

「レーザ孔あけ」に続き、F A Bの仕事の効率化等に寄与する研究開発を自ら主導する「広島県方式」が、F A Bの新たな未来に繋がることを確信し、一層の積極的活動を期待します。

また、4月21日に広島で開催された青年部の全国大会は、青年部を中心に、組合一丸となって努力した結果、全青会の新たなスタートを飾るにふさわしい大きな成功を収めることができました。

関係者の皆様のご努力に対し、深く感謝申し上げます。

今年を展望する上で、キーとなる言葉は「将来を見据えた経営」だと思います。

皆さんの仕事量は、ここ数年概ね確保され、利益も出ていると思います。

鉄骨の需要は、あと数年、2025年度まで500万トン台の高水準で推移すると見込まれる一方、首都圏一極集中が進むことは確

実で、地元広島が地域間格差の波を被る危険性は否定できません。

また、業界共通の課題である人材確保のために、働き方改革をしつかりと推し進める必要があります。

ある程度余裕のある今、目先から視線を上げて将来を見据え、自社が5年後、10年後に事業を継続・発展させていくための課題と対策について、経営者として真剣に考えるとともに、今出来ることから着々と手を打っていただきたいと思います。

その一つが事業承継です。

本県の中小企業における後継者不足は大変深刻で、我々FABも例外ではありません。

我々の果たす社会的使命が永久不変であるとするれば、皆さんそれぞれの事業承継は、次世代のために果たすべき大切な責務ということになります。

是非とも1月21日の「事業承継セミナー」を受講して、様々な承継の選択肢について学び、承継までの時間的な余裕のある時に、適切な決断と準備をしていただきたいと思います。

また、働き方改革については、関連法が4月から順次施行され、時間外労働の罰則付き上限規制や年休5日以上の取得義務化など、厳しい対応を余儀なくされることとなります。

皆さん、新年互礼会とともに開催する「働き方改革関連法への対応」講習会に必ず出席して勉強して欲しいと思います。

ただし、働き方改革は必ず労働単価の押し上げにつながるので、十分な資金確保が必要なことは言うまでもありません。

御承知のとおり、現在、鉄骨需要の拡大に生産が追い付かず、需給ひっ迫状況が続いていますが、一方で、鋼材価格、現場の労務費、輸送費など、原価のすべてが上昇を続けています。

将来にわたる会社の存続のためにも、原価の上昇を十分に織り込んで、利益のある受注を継続されることをお願いいたします。

最後になりましたが、安全は何物にも代えがたいものです。

どんなに小さな怪我でも、従業員の生活と鉄骨の製作工程への影響は決して小さくありません。日常的な事故防止・安全確保の努力、対策こそ、最も有効な作業効率の向上対策と考えて日々励行していただきたいと思います。

人命と財産を守る鉄骨の社会的使命は永久不変です。平成31年が、私たちが誇りを持ってその社会的使命を健全な形で全うできる年になることを確信しております。また、組合員の皆さまにとりまして良い年になるよう、心から祈念申し上げます。